

多摩支部会報

全国校友沖縄大会特別号

平成29年12月吉日

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山 強

広報委 飯田光宏



明治大学
全国校友

第53回

沖縄大会

めんそーれ沖縄 いちゃりば兄弟 明治はひとつ

沖縄大会に参加して

西山 強	2 p
柳澤正長	3 p
鈴木紘一	4 p
慰霊祭	5 p
江面利和	6 p
小川紳夫	7 p
小川 孝	8 p
編集後書 飯田	9 p

沖縄大会資料

式典次第	10 p
基調講演等	11 p
歓迎挨拶	12 p
会長挨拶	13 p
理事長祝辞	14 p
学長祝辞	15 p
県知事祝辞	16 p
市長祝辞	17 p
大会開催地	18 p
石川大会	19 p





第53回全国校友沖縄大会に出席して

多摩支部長
西山 強 (36工・国分寺)

今年で戦後72年、沖縄県が日本へ復帰して45周年を迎えるこの年に、亜熱帯の温暖な気候と豊かな自然に恵まれた沖縄で、「荒井退造氏慰霊祭」と「第53回全国校友沖縄大会」及び希望者によりエクスカージョンが行われました。

「荒井退造氏慰霊祭」は沖縄県営平和記念公園内の島守の塔前で行われ、あいにく雨模様でテント張りの中で参加者約100名（校友会本部、沖縄県支部、栃木県支部、兵庫県支部、東京都多摩支部）での実施でした。これも荒井退造氏（元沖縄県警察部長・栃木出身…明治大学専門部出身）の究極の中での生活等を考えると慰霊祭には最高の天候とも思われました。荒井退造氏は第二次大戦末期に県の首脳陣が不在の中、不退転の決意で20万人ともいわれる沖縄県民の命を救って、島守とも呼ばれている、その中ですこやかに荒井退造氏の慰霊の式典が行われ、出席者一同は献花・焼香を行い終了しました。その後、沖縄平和祈念資料館を見学し、当時の沖縄の悲惨さを見れば見るほど荒井退造氏の精神と

行動は、本学の理念である「個」強くする大学と大いに共鳴しました。

又、「第53回全国校友沖縄大会」は「めんそ〜れ沖縄（ウチナー）いちやり兄弟（チョーデー）明治は一つ」の呼びかけのもと、全国から930名・東京都多摩支部からも30名の参加があり、式典は盛大に行われ、その後、基調講演「琉球王国とアジア諸国との交流」、解説と実演「琉球・韓国の舞踊における比較研究と共創」、「華やかな各琉球舞踊」の実演が実演され、懇親会も盛大に行われ終焉しました。

これら実施は宮里沖縄県支部長をはじめ約900名の沖縄県校友会員の企画、運営のご尽力の結果と深く感謝しております。

これらを東京都多摩支部と各行事を比較すると行事の質の向上を更に行っていく必要があると思われました。皆で他支部・地域支部の行事等に参加や見学をし、質の向上に努めて行かなければならないと感じました。



命
ど
う
宝



基調講演 「琉球王国とアジア諸国との交流」講師：高倉倉吉（琉球大学名誉教授・文学博士）

全国校友沖縄大会に参加して 沖縄の思い出を今



多摩支部幹事長
柳澤正長（38工 国立）

第53回全国交友沖縄大会が11月17日より3日間にわたり900名の校友参加のもと盛大に開催されました、17日は雨降りしきるなか、荒井退造沖縄警察部長の慰霊祭に参加、18日の全国大会には多摩支部より29名が参加、式典に続き、琉球舞踊と韓国舞踊の競演もあり思い出に残る大会でした。

私ごとですが今回の沖縄行きは4回目でありまして、最初の旅は昭和37年8月の真夏の沖縄に校友と二人で旅行をしております、当時はまだアメリカの軍政下にありパスポートを取り、銀行にて100ドル（36000円）を懐に、神戸港より3000噸の黒潮丸に乗船、運悪く大型台風に遭遇、瀬戸内海、奄美大島、に停泊、那覇港まで3日間を要し、ひどい船酔いに悩まされ、船を降りてもふらふらして歩いておりました。太平洋の荒波は猛烈で、船のへさきを超える大波が連続で来

る様は恐ろしいものです。

当時、沖縄の首里城は戦争で廃墟と化し、守礼の門のみで、首里城跡には琉球大学が立っており、那覇市の街も高層ビルはなかったと思います。当時の観光は姫ゆりの塔、健児の塔が観光の目玉であり、定期バスに乗り見学したように記憶しております、2人は学生でお金もなく、宿の予約はせず、テント持参、海岸の砂浜で野宿の準備をしていると、近所の人が見れ、海岸は夜中に猛毒のハブや海蛇が出没、噛みつかれ、死ぬぞと脅かされ、その人の家に泊めてもらい、夕飯、朝食をご馳走になり、お土産まで頂いたと思います、確か息子さんが東京にいると言われた様に記憶しております。

今回の沖縄訪問を含め3回の旅行はジェット機の旅で3時間程度で那覇空港に到着、50数年前の沖縄行きとは格段の違いを実感いたしました、良き時代に生まれ幸せだと感じております。

大会の様子などは、後頁の式典次第や宮里沖縄県支部長挨拶や柳谷孝理事長の祝辞等及び添付写真等からご推察願ひ、私は、今回4回目の沖縄旅行をして、ふと思い出した第1回目の旅行に触れて書いてみました。





沖縄県平和祈念資料館

沖縄県警察部長 荒井退造・
終焉之地 碑
沖縄県知事 島田 毅



**荒井退造氏（元沖縄県警察部長）慰霊祭に
参列して
多摩支部副支部長 鈴木絃一（昭43 商）**



第53回全国校友沖縄大会の前日平和祈念公園内「島守の塔」前で、約140名が参列し、沖縄県支部・兵庫県支部・栃木県支部共催による「明治大学の先輩荒井退造氏（栃木県宇都宮市出身）」の功績を讃える慰霊祭が執り行われました。

あいにくの雨でしたが、厳粛な雰囲気の中で宮里沖縄県支部長の開式の辞で始まり、校歌斉唱・黙祷・読経・沖縄県知事挨拶（代読）に続き、長谷川栃木県支部長から、荒井氏の経歴・島田叡元沖縄県知事（兵庫県出身）と一緒に元沖縄県警察部長として20万人とも言われる沖縄県民の命を救った功績を讃える追悼の辞がありました。

先の戦争で、国内で唯一戦場となり、住民を巻き込んで大勢の犠牲者を出した悲惨な沖縄において、多くの県民の命を救ったその勇気と行動は沖縄では絶賛されております。しかし、残念ながらこの話はまだまだ全国的には知られておらず、明治大学の校友であることもあまり知られておりません。今回の慰霊祭で、向殿校友会長からは「荒井退造氏の功績を世界に発信していきたい」と

の挨拶があり、また、土屋学長からは「「島守の塔」の前で平和への道を歩むことを誓う」との挨拶がありました。

参列者全員焼香の後、「島守の塔」の上にある「島田知事・荒井警察部長終焉の碑」をお参りしました。

慰霊祭の後、多摩支部メンバーは平和祈念館を見学し、改めて、現在の平和な社会は戦争による大きな犠牲の上に成り立っていること、平和の尊さを心に刻んでまいりました。また、翌日の校友大会では、校友会長・理事長・学長・父母会長からそれぞれ荒井退造氏の功績を讃える挨拶がありました。

荒井退造氏のご家族が日野市にお住まいになってから、多摩支部としても今後、沖縄・兵庫・栃木県支部をバックアップして、荒井氏の功績を世に広め、後世に語り継いでいきたいと思っております。

（荒井退造氏に関する書籍 「たじろがず沖縄に殉じた荒井退造」「沖縄の島守」をご覧ください。又、ネット情報もご参照下さい。）



元沖縄県警察部長

荒井退造氏 慰霊祭

【日時】平成29年 11月17日(金) 14:00～15:00

【場所】沖縄県営平和祈念公園内 島守の塔

慰霊祭式次第

司会:菊地 志乃

開式の辞	…………… 明治大学校友会沖縄県支部長	宮里 博史
明治大学校歌斉唱	…………… 指揮 明治大学校友会沖縄県支部	東風平朝秀
読 経	…………… 護国寺住職	名幸 俊海
挨拶	…………… 沖縄県知事	翁長 雄志
追悼の辞	…………… 明治大学校友会栃木県支部長	長谷川 薫
挨拶	…………… 明治大学校友会長	向殿 政男
挨拶	…………… 明治大学長	土屋恵一郎
焼 香	……………	参 列 者
閉式の辞	…………… 明治大学校友会兵庫県支部長	奥田 祐司

荒井退造氏 経歴



1900年9月22日 栃木県芳賀郡清原村(現・宇都宮市)にて出生。

1915年 清原尋常小学校籠谷分校を経て、清原尋常高等小学校高等科卒業。

1920年 宇都宮中学校(現・宇都宮高校)を卒業して上京。

1923年 高千穂高等商業学校を経て警視庁巡査を拝命。
同時に明治大学専門部(夜間)に入学。

1927年～ 苦学を重ねて明治大学専門部を卒業し高等文官試験行政科に合格。

1932年～ 警視庁警視拝命、麻布六本木警察署長、ハルピン警察公署長等歴任、福島県、山口県、福岡県、長野県で奉職。

1943年7月 福井県官房長から沖縄県警察部長拝命。

1945年1月 知事として着任した島田叡県知事と共に、多くの県民を県外、北部へ疎開させ、20万人以上の命を救ったとされている。
また大混乱の戦時下で県民の避難誘導、食料確保等に身命を賭してその職務を遂行した。

1945年5月25日 内務省警保局長宛、次の電文を発信。
「60万県民 只暗黒ナル壕内ニ生ク 此ノ決戦ニ破レテ皇国ノ安泰以テ望ムベクモ無シト信ジ 此ノ部民ト相俱ニ敢闘ス」

1945年6月26日 島田叡県知事と共に糸満市摩文仁の壕を出て以後消息不明。

1951年6月 戦後いち早く、摩文仁の丘に島田叡氏、荒井退造氏二人の終焉の地を示す碑と県庁職員御霊を祀った「島守の塔」が建てられた。



記念講演

「琉球・韓国の舞踊における比較研究と共創造」

実演フィナーレ

嘉利吉 (総出演)

(写真：飯田)

**全国校友沖縄大会に参加して
日野地域支部 江面利和 (47年 工)**



今回は全国各地からおおよそ900人の校友が集まり、多摩支部からも約30名が参加しました。日本最南端の地に900人も集まることに愛校心と結束力の強さを感じた全国大会でした。まさに「明治はひとつ！」

を実感する時でした。

初めに宮里博史沖縄県支部長より「戦後72年、沖縄県が日本復帰して45周年を迎えている。沖縄の歴史、文化の現状を見ていただき、併せて明治はひとつを実感し、母校支援を誓うことで皆様の心に残る大会になればと願っています」と歓迎のご挨拶がありました。

向殿政男校友会長の挨拶に続き、土屋恵一郎明治大学長は、軍事利用を目的とする研究・連携活動の禁止などをアピールした全面広告を全国紙に掲載したこと、また女子学生の入学者が多いことに触れ、東洋経済新報社から『あの明治大学が、なぜ女子高生が選ぶNo.1大学になったのか?』が11月17日に出版されたので、是非読んでほしいと紹介されました。

***琉球舞踊 (沖縄県支部HPより)**



式典後、「琉球王国とアジア諸国との交流」をテーマにした記念講演、続いて琉球舞踊・韓国舞踊の実演がありました。

私が、全国大会に参加するのは新潟、大津、鳥取に続いて4回目になりますが、参加するたび、他県の校友と顔見知りになることが、楽しみになります。前日のホテルへ向かうシャトルバスでは隣に座った方が福島県の方で、12回目の参加とのことでしたが、後で校友会副会長増子眞也さんと知りました。当日の会場

に向かうバスでは仙台地域支部長・阿部倫明さんにバツタリ会うなど、有意義な大会でした。(阿部倫明さんは仙台で居酒屋「りとらい」を経営されていて、10月に日野地域支部で仙台に伺ったときお世話になりました。)

式典での向殿校友会長ご挨拶



***懇親会 (沖縄県支部HPより)**





美ら水族館付近海岸線（写真：飯田）

全国校友沖縄大会に参加して・・・
沖縄は遠い。でも、「明治はひとつ」
町田地域支部 小川 紳夫（46年 文）



この数年の中で沖縄を訪れるのは3回目。最初は8年前、定年退職した年に妻を誘って、「沖縄ツアー」に参加した。2回目は姪が恩納村のホテルで結婚式を挙げるというので喜んで参加した。従って今度が三回目の沖縄訪問であった。

3回目といっても結局のところ沖縄のことは何もわかっていないという自己の無知をいやというほど突きつけられた2日間であった。

今回、大会に参加して衝撃的だったのは、記念式典での沖縄県支部の山川副支部長の「閉会の挨拶」。氏の明治大学学生時代は、まだ沖縄がドルを使っていた時代。「沖縄から竹芝（晴海？）まで48時間かかった。」「検疫がすごく厳しかった」「沖縄なのに、日本語がうまいね、と言われて悔しかった。

俺は日本人なのだよ」等々。

心情的には沖縄を理解しているつもりでも、実のところ私は何も分かっていなかった。本当に恥ずかしい。大会の翌日に首里城をゆっくり見学しながら深く反省した。

復帰から45年。大会を支えてくれていた沖縄の若い校友会員のきびきびした働きが大変印象的でした。

ありがとう。やはり「明治はひとつ」です。



首里城は改修工事中でした



写真
飯田

レンタカーで美ら海水族館へ
日野地域支部長
小川 孝 (47年 商)

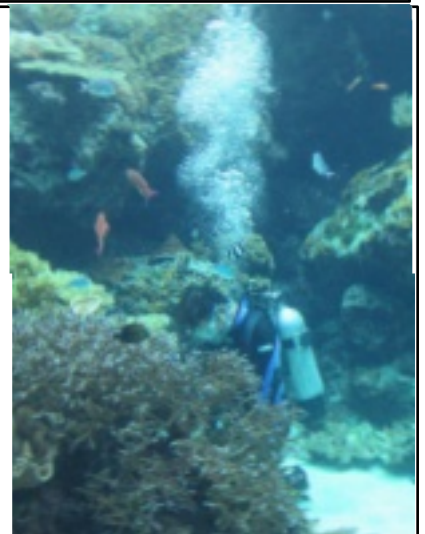


今回の沖縄大会の手配（航空券、宿、エクスカーション）は全て鈴木副支部長にお任せで、一行7人（西山支部長、鈴木、飯田、當麻の3副支部長、柳澤幹事長、小平の波多野氏と私）は雨の那覇空港に降り

立ちました。

初日の大渋滞は深く記憶に刻まれた。翌18日はガイド付首里城観光。首里城正殿を背景に記念撮影。南殿詰所から書院・鎖之間を拝観していると、柳澤幹事長から「一服」の提案があり、ガイドの「時間がない。キャンセル」との叫びに耳を貸さず、鎖之間で琉球王国時代の伝統菓子とお茶を味わう。

最終日の慶良間観光は急遽中止。レンタカー利用で美ら海水族館に行くことになった。レンタカー手配を鈴木副支部長にして頂いた。運転手を買って出る。助手席にナビゲーター役で鈴木副支部長が着座。那覇インターから沖縄自動車道に入り許田インターに向かう。那覇空港に17時到着を目指す関係で、時間・行程管理はナビゲーターに全てお任せである。許田ICを降り、50分ほど走り、美ら海水族館に到着、世界最大級の大水槽「黒潮の海」を泳ぐ巨大ジンベエザメやマンタの姿に圧倒される。昼食後、熱帯ドリームセンターで、熱帯・亜熱帯の花や果樹、ランを鑑賞する。センター内カフェで公務員的不愛想な接客を受け、コーヒーを飲んで、帰途に着く。営業所近くで道に迷ったが、無事車を返し、バスで空港に到着。運転疲れは夕食の泡盛で吹き飛びました。



美ら海水族館 写真：飯田

首里城広場で居合せた多摩支部会員及び神奈川東部支部会員と記念写真



写真：鈴木紘一氏



編集後書

第53回全国校友沖縄大会が、900余名の校友が沖縄県に集い成功裏に開催された。韓国の校友もそして日本各地から、南国、沖縄にまさに馳せ飛んできた。東京と比べると気温差10度以上で、気候の暖かさを肌を感じ、それ以上に沖縄の校友・県民の温かさを心に感じました。

「めんそーれ 沖縄（ウチナー） いちゃりば兄弟（チョーデー） 明治はひとつ」そのものである。

大会前日、沖縄県営平和祈念公園内 島守の塔で、太平洋戦争末期の沖縄県警察部長として当時の兵庫県出身島田叡県知事と共に終戦間際の大混乱の中20万人ともいわれる多くの県民の命を救った母校校友 荒井退造氏（栃木県出身）の慰霊祭に参加しました。雨降る中読経を聞きながら、当時の混乱と死の恐怖の中逃げ惑う人々の姿を想い、合掌し、今日の平和のありがたさを感謝したしだいです。

第53回記念式典及び基調講演、は沖縄コンベンションセンター劇場棟で開催され、沖縄の伝統芸能等に浸りました。

懇親会は、場所をラグナガーデンホテルに移動し、溢れんばかりの校友が、「泡盛」等に酔いしれ、伝統芸能・空手演技等に見入りました。

第54回石川大会での再会を約し、明治大学応援歌・校歌を大合唱！宮里沖縄県支部長の閉会の辞を持って散会しました。

翌日のエクスカッション慶良間観光コースは荒海のため中止。予定していた多摩支部メンバーのうち7名は、鈴木紘一副支部長の手配したレンタカーで美ら海水族館を鑑賞いたしました。皆さま、お疲れ様でした、ご参加有難うございます。写真提供ありがとうございました。

以降のページは大会資料です。スキャナーが上手くいかず、読み取りにくいと思いますが、参考までに添付しました。

多摩支部広報委員会 飯田光宏 （町田 39年 法）

第53回 明治大学全国校友沖縄大会

式典次第

日時:平成29年11月18日(土)14:00

会場:沖縄コンベンションセンター劇場棟

記念式典 (14:00~15:15)

大会旗入場	先導 (沖縄県副支部長)	山川 健 (昭45法卒)
	旗手 (明治大学野球部OB)	真壁 朝之 (昭62法卒)
国歌斉唱		
校歌斉唱		
物故校友への黙祷		
開会宣言	前沖縄県支部長	政岡 玄章
歓迎の挨拶	沖縄県支部長	宮里 博史
来賓紹介		
大学役職者紹介		
校友会役員紹介		
大会会長挨拶	明治大学校友会長	向殿 政男
祝辞	学校法人明治大学理事長	柳谷 孝
祝辞	明治大学長	土屋恵一郎
来賓祝辞	沖縄県知事	翁長 雄志
来賓祝辞	宜野湾市長	佐喜真 淳
来賓祝辞	明治大学連合父母会長	波多野宏一
全国支部長代表挨拶 (次年度全国校友大会開催県)	石川県支部長	安井 克郎
万歳三唱	明治大学校友会長	向殿 政男
	学校法人明治大学理事長	柳谷 孝
閉会の挨拶	沖縄県副支部長	山川 健

記念講演(15:30~17:00)

基調講演

■ 演題 「琉球王国とアジア諸国との交流」

講師 高良 倉吉 (琉球大学名誉教授・文学博士)



解説と実演

■ 解説 「琉球・韓国の舞踊における比較研究と共創」

講師 波照間 永子
(明治大学情報コミュニケーション学部准教授・学術博士)



■ 実演

四つ竹 (琉球古典舞踊)

構成・指導: 眞境名結子 眞境名本流眞薫結の会

谷茶前 (琉球舞踊・雑踊り)

構成・振付・指導

海、息、踊 (韓国舞踊・創作舞踊)



志田 房子
国指定重要無形文化財
(琉球舞踊) (総合認定) 保持者



田 銀子
成均館大学校
舞踊学科教授

布花 (琉球舞踊&韓国舞踊 共同制作作品)

フィナーレ

嘉利吉 (総出演)

懇親会次第

日時: 平成29年11月18日 (土) 18:00~20:00

会場: ラグナガーデンホテル 宴会場 (羽衣)

琉舞 かぎやで風

波照間永子・志田 真木

歓迎の挨拶

沖縄県教育長

平敷 昭人

泡盛樽 鏡開き

明治大学役員・校友会役員

乾杯

明治大学校友会長

向殿 政男

余興 空手演武

劉衛流 龍鳳会

余興 エイサー演舞

創作芸団レキオス

次年度開催県PR

明治大学校友会石川県支部

明治大学応援歌・校歌斉唱

明治大学応援団OB

閉会の挨拶

沖縄県支部長

宮里 博史

歓迎の挨拶



明治大学校友会沖縄県支部
支部長・大会実行委員長

宮里 博史

「めんそ〜れ 沖縄(ウチナー) いちゃりば兄弟(チャーデー) 明治はひとつ」の大会テーマの下、全国各地及び大韓民国から約900名の校友の皆様へ遠路ご来県いただき沖縄県支部・実行委員会を代表して心より感謝と歓迎を申し上げます。

本日ここに「第53回明治大学全国校友沖縄大会」を開催するに当たり、沖縄県知事翁長雄志様、宜野湾市長佐喜眞淳様、明治大学連合父母会会長波多野宏一様、明治大学理事長柳谷孝様、明治大学学長土屋恵一郎様はじめ大学関係役職員各位のご列席を賜り、盛大に挙行できます事は真に慶びに堪えないところであります。沖縄県での開催は平成元年以来2回目となります。

今年には戦後72年、沖縄県が日本復帰して45周年を迎えております。終戦後や復帰前後の混乱と幾多の苦難を乗り越えて沖縄県はお蔭様で目覚ましい発展を遂げることができました。国内で唯一の亜熱帯地域として「青い空、紺碧の海」に代表される豊かな自然、温暖な気候、琉球王朝時代から受け継いできた独自の歴史、文化、芸能等個性あふれる地域として、そして日本におけるアジアへの「人、物、情報」のゲートウェイ、全国で唯一人口の自然増加が続いていることなどから我が国の将来に向けた様々な分野のフロンティアとしての役割、及びその可能性の高さが注目されております。しかしながら一方では基地問題、脆弱な経済構造、社会インフラの整備な

どの課題も抱えております。

また、今大会の前日には、校友荒井退造氏(栃木県出身。太平洋戦争末期の沖縄県警察部長として当時の兵庫県出身島田叡県知事と共に終戦間際の大混乱の中沖縄県民の食料確保、県外、北部への疎開に尽力し多数の県民の命を救った)の功績を称えご遺徳を偲び沖縄県営平和祈念公園で慰霊祭を行いました。

こうした節目の年に全国の明治大学校友が沖縄に相集い、沖縄の歴史、文化、現状を見ていただき、併せて「明治はひとつ」を実感して「母校支援」を誓うことで皆様に残る大会になればと願っております。

大会開催に当たり、明治大学及び明治大学校友会からのご指導・ご支援、そして大会記念誌への協賛広告、ご寄付等ご協力をいただきました皆様、及び大会準備のためご尽力いただきました実行委員会の皆様、その他関係者の皆様にも心から感謝申し上げます。

また本日ご参加いただきました全国校友の皆様のご多幸とご健勝及び母校明治大学のさらなる発展を祈念申し上げ歓迎の挨拶といたします。

大会会長挨拶



明治大学校友会
会長

向殿 政男

待ち望んでいた今年度の全国校友大会が、沖縄県で開催される運びとなりました。ここに至るまでの多くの関係者の皆さまがた、特に、宮里博史支部長をはじめとする沖縄県支部や近隣支部の皆さまや関係する校友の方がたのご尽力に対して、深く感謝申し上げます。

母校明治大学の志願者数は、今年もまた、11年連続で10万人を超えました。母校は、現在、このように大変な人気を博しておりますが、受験生はもちろんのこと、現役学生、ご父母、校友の皆さまにも、大好評を以て受け入れられております。

一方、本学は創立140周年を見据えた中期計画をはじめ、重点施策のひとつに「ステークホルダー(校友会・父母会)との連携」を掲げており、より一層の連携強化を図ることを進めています。大学と校友は表裏一体の関係にあり、近年における明治大学の高い評価は、OB・OGの皆さまが築きあげた伝統の継承が基盤となっていると確信しております。これもひとえに、長年にわたる大学の教職員、経営陣、現役の学生等大学関係者の懸命なご努力の賜物であります。更に加えて、校友である皆さま方のご活躍による社会的評価の結果であり、ここに敬意を表する次第です。

高等教育機関を取り巻く環境においては、大学設置基準大綱化以降、設置認可等に係る規制緩和や国公立大学の法人化等に伴う競争原理の導入・18歳人口の減少・グローバル化の加速等により、一層厳しさを増しています。今後の明治大学が取り組む様々な事業において、皆さまのご協力は必要不可欠であります。

校友会といたしましては、地方からの志願者数を

増やし支援するために、給付型奨学金「つなげ!“紫紺のたすき”奨学金」を創設し、地方出身者の経済支援を後押しする奨学金など、組織力の強さをもって、支援しております。

更に、大学は、「校友の皆さまとともに、明治大学のブランドを強めていくこと」を重視して、ヒューマンネットワークの構築に取り組んでおり、54万人を超える校友が世界中のあらゆるシーンで活躍しております。本学の校友会ネットワークも韓国・台湾の支部に加え、海外の主要地域に在住・駐在する海外の校友団体「海外紫紺会」が19ほど設立されました。

校友会の目的は、大学を支援し、賛助することです。その活動を通して卒業生同士の親睦を図ることです。その中で校友会の役割は、母校が発展・充実するよう、そして、後に続く学生が各人の夢を実現して社会に貢献できるように支援することです。私たち校友は、その活躍・貢献により、明治大学の名声を上げることに寄与しております。「明治ファミリー」として明治大学関係者が一致団結し、協力していくことが、私が掲げるスローガン「明治はひとつ」を意味しております。

全国校友大会は、これからの校友会を益々躍進させていくことで、母校を支援し、母校に貢献することを誓う機会であります。今年は、ここ沖縄県で、「めんそ〜れ沖縄 いちゃりば兄弟 明治はひとつ」をコンセプトとしたこの大会を、是非とも盛り上げていきましょう。

沖縄大会の成功を、そしてご来場の皆さま、関係各位の益々のご多幸と母校明治大学のさらなる発展を、心より祈念申し上げます。

祝 辞



学校法人 明治大学
理事長
柳谷 孝

第53回全国校友沖縄大会が、向殿会長、宮里沖縄県支部長をはじめ、ご関係の皆様方によるご尽力により挙行されますことを、心からお祝いを申し上げます。また、全国の校友会の皆様におかれましては、日頃より本学に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、沖縄といえば、亜熱帯の温暖な気候と豊かな自然に恵まれた場所であります。加えて、古くからアジアの玄関口として交易が活発に行われたこともあいまって、国際色溢れる文化と風土が育まれたところでもあります。この地に「めんそ〜れ沖縄（ウチナー）いちやりば兄弟（チョーデー）明治はひとつ」の呼びかけのもと、全国から校友の皆様が集いました。沖縄での開催は、教育研究の視野がグローバルに広がっている現在の明治大学に相応しい場所であるといえます。

あわせて、ここ沖縄では、多くの一般市民が犠牲となった凄惨な地上戦があったことも忘れてはなりません。戦時中、本学校友で沖縄県警察部長であった荒井退造氏が、県首脳陣が不在の中、不退転の決意で沖縄県民の集団疎開を先導し、多くの命を救いました。混迷を極める状況下にあっても信念を貫いた彼の精神と行動は、本学の理念である「個」を強くする大学と大いに共鳴するところがあります。

戦後72年、沖縄本土復帰45年。幾多の苦難と深い悲しみを乗り越えて、逞しく復興した沖縄。その過

程では、本学で「前へ」の薫陶を受けた校友の方々がこれに携わり、今も沖縄県支部の皆様が、それぞれのお立場から郷土の振興と発展に貢献されていることと存じます。

ところで、創立時の1881年に作られた『明治法律学校設立ノ趣旨』には、「同心協力一校ヲ設立シ」という一節があります。3名の創立者が、文字通り「同心」つまり同じ志をもって共に協力し創立した、それが明治大学であると記されています。この「同心協力」の精神は、校友の皆様が常日頃おっしゃっている「明治はひとつ」という言葉に通ずるものであります。学生としての大学への在学期間は数年間でありますが、校友は一生であります。校友会の皆様が現役学生への支援を通じまして、次代の校友を育成する。そのような循環を通じて、「同心協力」の輪を更に広めていっていただきたいとお願いを申し上げます。本大会では「明治はひとつ」の思いを新たに、全国の校友の皆様方と「同心」となって、大いに母校の未来を語り、高らかに校歌を斉唱できますことを心待ちにしております。

結びにあたり、母校明治大学がアジアそして世界のトップユニバーシティとして大きく飛躍できますよう更なるご支援をお願いするとともに、校友会の一層の発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

祝 辞



明治大学 学長
土屋 恵一郎

全国校友沖縄大会が沖縄の本土復帰45周年を迎えた本年に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。このような記念すべき本大会が無事に迎えられるのも、労苦を厭わず企画・運営にご尽力いただきましたおよそ930名の沖縄県校友会員をはじめとする関係者の皆様のご尽力の賜物であります。記憶に残る大会になると思います。あらためまして心より敬意と謝意を表したいと存じます。

45年という時を経ても変わらないものがあります。澄み渡るマリンプルー。包み込むような沖縄の人々の温かさ。グローバル化が著しく進展する現代社会の変容に伴い町並みは変われども、オリジナリティ溢れる豊かな文化を育んできた沖縄は今でもここに間違いなく生き活きと存在しています。

一方、基地問題に代表されるように、時を経ても改善されぬままの負の遺産は未だに数多くあり、放置され続けているといっても過言ではありません。南北を反転させて世界地図を眺めると、沖縄の地理的重要性を指摘されることがあります。しかしながら、それは沖縄の皆さんが自らの意志に反して背負われてきたものです。本土復帰45年を迎えた沖縄の地にいる我々は、今一度、日本が内包する歪みを考える時機にあるといえます。それは何よりも、我々が「権利自由」「独立自治」を建学の精神とする明治大学の校友であるからです。

また、明治大学には、沖縄をはじめとした離島研究に携わる多くの教員がいます。2015年には、特定

課題研究の一環として、明治大学島嶼文化研究所を設立しました。さらには、多くの校友がこの沖縄の地で活躍しています。このように、沖縄県と明治大学には太いつながりがあります。人権と平和を探求する大学の責務として、そして、第二次大戦末期に10万人とも20万人ともいわれる沖縄県民の命を救った荒井退造氏の想いを胸に刻みながら、これからも沖縄の皆さんとともに、平和への戦略を考えていきたいと思っています。

去る5月には、ニューヨークの国連本部を訪れ、本学名誉博士のアントニオ・グテーレス国連事務総長を表敬しました。事務総長就任のお祝いのもとより、世界平和への一助となるべく本学が実施している難民を対象とした入学試験の現状など、難民支援に関する本学の取り組みについて報告をしました。対して、事務総長からは明治大学が先頭に立ち、日本での難民入試をさらに広げ、一人でも多くの若者に教育の機会を与えて欲しいと言われました。その期待に応えられるよう、今後も取り組みを続けてまいります。

この度の全国校友沖縄大会が、これからも本学が人権と平和を探求し続けていくことを校友の皆さまとともに再確認する機会となることに喜びを感じています。校友の皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

祝 辞



沖縄県知事
翁長 雄志

はいさい、ぐすーよー、ちゅーうがなびら。(皆様、こんにちは。)

「第53回明治大学全国校友沖縄大会」が開催されますことをお喜び申し上げます。また、本大会への参加のため、国内外の各地からお集まりいただいた皆様、ようこそ沖縄へお越しくございました。県民を代表して、心から歓迎申し上げます。

明治大学は、明治14年の創立以来、「権利自由、独立自治」の建学の精神の下、社会に貢献する人材の育成に努められ、多くの卒業生が、政界や経済界をはじめ、芸能、スポーツなど様々な分野で活躍しており、我が国の発展に大きく貢献されてきました。また、現在、約100名の沖縄県出身の学生が明治大学に在籍し、生き生きと学業に励んでいると伺っており、沖縄のみならず、我が国の将来を担う優れた人材になることを期待しております。

明治大学校友会は、創立以来、明治大学の歩みとともに伝統と歴史を刻み、現在では、53万名余りの会員が交流を深めながら、母校の支援に取り組まれています。また、この全国校友大会は、毎年各県支部持ち回りで開催され、全国規模での相互連携、情報交換を行っている伺っております。向殿政男

会長をはじめ、各地域において、校友会の活動に御尽力されている会員の皆様に深く敬意を表します。

また、お集まりの皆様には、この機会に、より一層の交流を深められるとともに、沖縄の豊かな自然、独特の伝統文化等に触れていただき、沖縄県の魅力を御堪能いただければ幸いに存じます。

結びに、本大会の御成功をお祈り申し上げますとともに、明治大学校友会と明治大学の益々の御発展と、お集まりの皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げます。挨拶といたします。

祝 辞



宜野湾市長
佐喜眞 淳

本日、第53回明治大学全国校友沖縄大会が、ここ「ねたての都市(まち)ぎのわん」において、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、沖縄県が本土へ復帰し45周年を迎える記念すべき年に、国内外より、多くの皆様をお迎えできましたことは、誠に意義深いことであり、宜野湾市民を代表し、心より歓迎申し上げます。

明治大学は、明治14年、封建的な社会から近代国家としての自立を急務とする中創立され、「権利自由」「独立自治」の建学の精神を基本理念に、国内外を通じ様々な方面で活躍する人材を多く輩出され、我が国の発展に大きく貢献されておりますことに、深く敬意を表します。

さて、沖縄県は琉球王国という国家において、空手や組踊など独自の文化を発展させてまいりましたが、今から137年前、明治法律学校が創立される僅か2年前の明治12年、琉球王府が明治政府の琉球処分によって解体され、「沖縄県」として誕生しました。明治政府下に置かれた沖縄県は本土化がすすみ、これまでの制度や習慣、文化に影響を与えました。当時、農業を主体とした宜野湾間切(現在の宜野湾市)では、主にサトウキビなどが生産され、また、市域の西海岸地域では豊富な湧水を活かした稲作が行われておりましたが、昭和40年代以降、田(ター)芋(ンム)の栽培が盛んに行われるようになり、現在では市の特産品となっております。

大正から昭和初期には普天間に沖縄県庁の支庁として中頭郡役所や中頭教育会館などの官公署が

置かれるなど、沖縄本島中部の中心地として発展して参りました。

また、かつて、沖縄にも鉄道が存在し、大正11年には、那覇駅～嘉手納(かでな)間に、沖縄県営軽便鉄道嘉手納線が敷設され、「ケービン」の愛称で親しまれておりました。宜野湾に設置された大山駅では、普天満宮への参拝者や収穫されたサトウキビが嘉手納の製糖工場に運ばれるなど、活気にあふれておりました。この鉄道は残念ながら、現存しませんが、当時の様子を、本市博物館所蔵の資料等で確認することができますので、お時間のある方は、是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。当時に思いを馳せ、市内に僅かに残る史跡を探す旅も、また、ご当地ならではの歴史巡りとして、楽しむことができるのではないのでしょうか。

そのほか、羽衣伝説で伝えられております郷土の英雄・察度(さつと)の生い立ちや伝説が華麗に表現される「察度王歴史絵巻行列」を、本市恒例行事「はごろも祭り」において堪能する事が出来ますので、夏にお越しの際には、ぜひご観覧いただければ幸甚に存じます。

結びに、本大会の開催に向け御尽力されました校友会沖縄県支部長宮里博史(ひろし)様はじめ、いちゃりば兄弟(チョーデー)(出逢えば皆兄弟)、「明治はひとつ」を合言葉に、本日お集まりくださいました明治大学校友会の皆様、並びに関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ歓迎の挨拶といたします。

明治大学全国校友大会一覽

回	開催年月日	大会名	開催地	会場
1回	昭和 29年 3月12日	福岡大会	福岡市	平和楼
2回	32年 11月10日	東京大会	東京都	明治大学大学院
3回	33年 10月26日	大阪大会	大阪市	中央公会堂
4回	34年 10月25日	東京大会	東京都	明治大学駿河台校舎
5回	35年 9月24日	北海道大会	札幌市	自治会館
6回	35年 10月 9日	石川大会	金沢市	商工会議所
7回	36年 10月22日	福岡大会	福岡市	農業会館
8回	37年 10月21日	愛知大会	名古屋市	ミカド
9回	38年 10月 6日	愛媛大会	松山市	愛媛新聞社
10回	39年 10月 4日	東京大会	東京都	明治大学和泉校舎
11回	40年 10月10日	静岡大会	清水市	三保園ホテル
12回	42年 10月22日	宮城大会	仙台市	仙台ホテル
13回	46年 9月19日	東京大会	東京都	明治大学和泉校舎
14回	49年 10月10日	静岡大会	静岡市	静岡新聞社別館
15回	50年 10月18日	東京大会	東京都	ホテルニューオータニ
16回	52年 10月 2日	静岡大会	熱海市	金城館
17回	53年 10月21日	東京大会	東京都	東京プリンスホテル
18回	54年 11月 1日	東京大会	東京都	ホテルニューオータニ
19回	55年 10月10日	東京大会	東京都	ホテルニューオータニ
20回	57年 10月31日	山口大会	山口市	ホテルかめ福
21回	58年 10月23日	福島大会	郡山市	東北歯科大学記念講堂
22回	59年 10月14日	岡山大会	岡山市	岡山プリンスホテル
23回	60年 10月 4日	東京大会	東京都	ホテルニューオータニ
24回	61年 10月19日	福岡大会	福岡市	福岡郵便貯金会館
25回	62年 9月20日	北海道大会	札幌市	札幌グランドホテル
26回	63年 10月16日	四国大会	松山市	愛媛県県民文化会館
27回	平成 元年 9月24日	沖縄大会	那覇市	沖縄グランドキャッスル
28回	3年 10月27日	浜松大会	浜松市	浜松グランドホテル
29回	5年 10月31日	東京大会	東京都	明治大学和泉校舎
30回	6年 10月11日	宮城大会	仙台市	仙台青葉山国際センター
31回	7年 9月30日	岐阜大会	岐阜市	長良川国際会議場
32回	8年 10月 5日	京都大会	京都市	国立京都国際会館
33回	9年 9月20日	山梨大会	甲府市	甲府富士屋ホテル
34回	10年 8月 2日	青森大会	青森市	青森市文化会館
35回	11年 10月24日	東京大会	東京都	明治大学リパティタワー
36回	12年 9月24日	愛媛大会	松山市	愛媛県県民文化会館
37回	13年 9月15日	石川大会	金沢市	金沢市文化ホール
38回	14年 10月27日	大阪大会	大阪市	大阪国際会議場
39回	15年 10月 3日	長野大会	松本市	長野県松本文化会館
40回	16年 10月10日	福岡大会	福岡市	シーホークホテル&リゾート
41回	17年 9月11日	愛知大会	名古屋市	ウェスティンナゴヤ キャッスル
42回	18年 9月24日	栃木大会	宇都宮市	ホテル東日本宇都宮
43回	19年 11月 4日	広島大会	広島市	リーガロイヤルホテル広島
44回	20年 9月14日	秋田大会	秋田市	秋田キャッスルホテル
45回	21年 9月27日	富山大会	富山市	富山県民会館
46回	22年 9月 4日	山形大会	山形市	山形県県民会館大ホール
47回	23年 11月 3日	東京大会	東京都	明治大学アカデミーホール/帝国ホテル
48回	24年 9月 9日	静岡大会	静岡市	グランシップ
49回	25年 10月 5日	大分大会	別府市	別府ビーコンプラザ
50回	26年 9月 7日	新潟大会	新潟市	朱鷺メッセ
51回	27年 9月 6日	滋賀大会	大津市	大津プリンスホテル
52回	28年 11月13日	鳥取大会	鳥取市	とりぎん文化会館梨花ホール
53回	29年 11月18日	沖縄大会	宜野湾市	沖縄コンベンションセンター劇場棟

来まっし 見まっし 寄るまっし

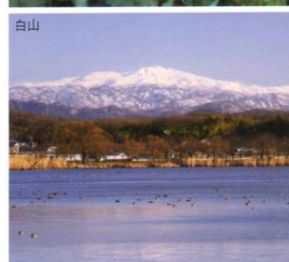
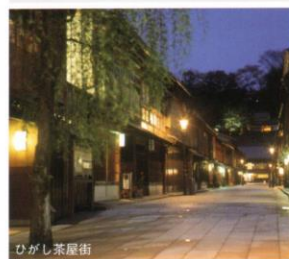
第54回 明治大学全国校友
石川大会

(平成30年)
2018年9月30日(日)

大会式典・講演会 石川県立音楽堂

懇親会 ホテル日航金沢

明治大学校友会石川県支部事務局



多摩支部のみなさん！今から参加する準備をしましょう！



MEIJI
UNIVERSITY

